

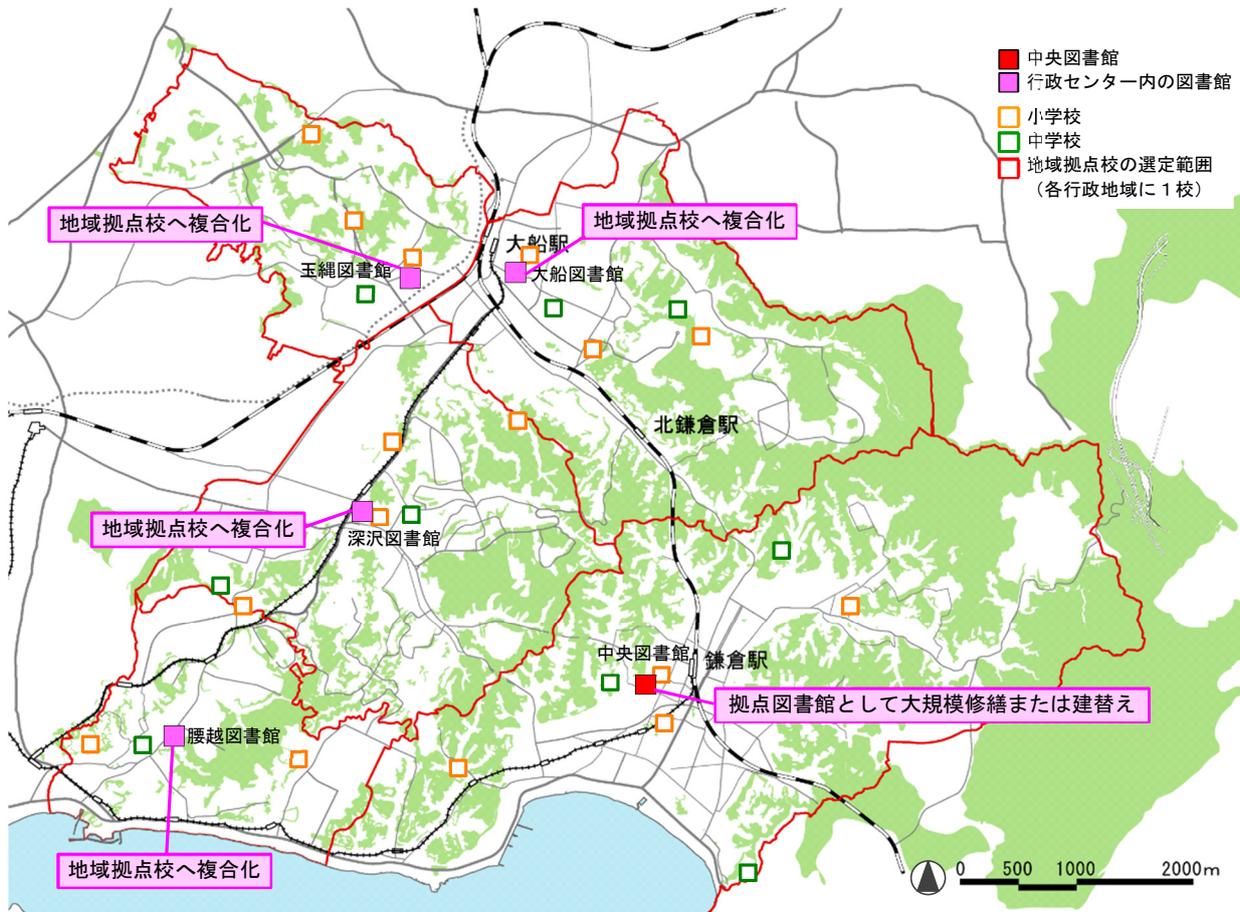
(8) 図書館

再編方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆拠点図書館としての機能充実を図るために、中央図書館の大規模修繕または建替えの際に、必要な機能を見直し、蔵書数を拡充する。</li> <li>◆拠点図書館の充実に合わせて、各地域の図書館のあり方を検討し、各地域の図書館機能は多世代が交流できる機能と複合化する。</li> </ul>
------	--

再編内容	<p><b>短期</b> (H26～H31 対応分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央図書館は、大規模修繕または建替えなどにより、拠点図書館としての機能の充実を図る。</li> <li>・各地域の図書館は、地域拠点校選定の検討に合わせて、学校図書館との連携も含めた、多世代が交流できる機能の具体的なあり方を検討する。</li> </ul>
	<p><b>中期</b> (H32～H37 対応分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の図書館の機能を地域拠点校へ統合するまでの間、既存の各行政センターの老朽化の状況に応じ、適切に修繕することで建物の安全性を確保する。</li> </ul>
	<p><b>長期</b> (H38～H65 対応分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域拠点校の建替えに合わせて、各地域の図書館のあり方を検討し、各地域の図書館機能は多世代が交流できる機能と複合化する。(建替え等による複合化整備までの間、既存施設は存続する。)</li> </ul>

再編によるコストの削減効果等	<p>図表 図書館の規模の推移</p>				
		現状	短期 H31年度末時点	中期 H37年度末時点	長期 H65年度末時点
	施設数	5	5	5	1(4)
	施設面積	5,055㎡	5,055㎡	5,055㎡	3,500㎡程度
	※施設数の( )で示すものは、地域拠点校に集約する図書館機能の数。				
	<p>図表 図書館のコスト (累計) (百万円)</p>				
			短期 H26～H31 (6年間)	中期 H26～H37 (12年間)	長期 H26～H65 (40年間)
	従来型コスト	$A=a+b$	1,837.0	3,739.1	14,069.1
	建設	$a$	50.5	166.2	2,159.3
	管理運営	$b$	1,786.5	3,572.9	11,909.8
再編後のコスト	$B=c+d+e$	2,293.4	4,353.8	11,751.6	
建設	$c$	506.9	780.8	1,691.8	
管理運営	$d$	1,786.5	3,572.9	10,059.8	
借地料	$e$	0.0	0.0	0.0	
コスト削減効果	$C=A-B$	-456.4	-614.6	2,317.5	
削減率	$C/A$	-24.8%	-16.4%	16.5%	

図表 図書館の配置等



■参考事例：学校図書室と地域図書館分館の共同利用

施設概要

施設名	川崎市立柿生小学校、 麻生図書館柿生分館
所在地	川崎市麻生区片平三丁目
敷地面積	11,605.52 m <sup>2</sup>
延床面積	8,151.94 m <sup>2</sup>
	学校 7,940.11 m <sup>2</sup>
	図書館 211.83 m <sup>2</sup>
構造・規模	鉄筋コンクリート造、 4階建
供用開始	平成15年

学校図書室と地域図書館分館を共同利用した複合化の事例です。

川崎市立柿生小学校・麻生図書館柿生分館は、図書館が学校1階に設置（専用入口あり）されていますが、学校図書室と図書館分館はベルトパーティションによる仕切り（注意書きあり）のみで動線が分離されており、小学校の児童は図書館分館を自由に利用でき、一般市民も放課後や休日など学校が休みのときは学校図書室を利用できるようになっています。

共同利用のメリットとしては、学校図書室と地域図書館の蔵書等を共有することで相互の資源を有効活用でき、職員数の削減や維持管理コストの軽減など、本当に必要なサービスに対する経費を効率的に投入できることなどが挙げられます。

麻生図書館柿生分館の入口



分館の書架



学校図書室と図書館分館の仕切り

